2024年８月６日

各　位

会 社 名　　ラクスル株式会社
代表者名　　代表取締役社長 CEO　永見　世央
（コード：4384、東証プライム市場）
問合せ先　　上級執行役員 CFO　　杉山　賢
（TEL. 03－6629－4893）

投資家の皆様より多く寄せられた質問と回答（2024年８月）

日頃よりラクスル株式会社にご興味ご関心をお持ちいただきありがとうございます。直近１週間で投資家の皆様より多く寄せられた質問とそれに対する当社の回答を、下記の通り開示いたします。

Q1	足元で為替が急速に円高方向に動いているが、ラクスル社の事業や業績に対する影響は？

当社の事業および業績に対する円高方向の為替変動の影響は軽微ないしプラスです。

当社連結範囲の中で外貨建ての売上高はほとんどなく、費用においては、ベトナムにソフトウェア開発の拠点を有するのに加えて、資材調達において機動的に国内と海外の比率を調整しながら事業推進をしております。為替変動による事業への影響は軽微であり、一部外貨建ての費用があることから、円高の影響はややプラスとなります。

Q2	国内外で金利環境が変動しているが、M&A戦略に対して影響はあるか？

固定金利と変動金利を組み合わせて負債調達を行っており、加えてシナジーの蓋然性の高い事業や収益性の高い事業のM&Aを戦略の中核とすることで、リスクを抑えています。

当社のM&A戦略は、2024年７月期第３四半期決算説明会資料のP26にある中期財務ポリシー、キャピタルアロケーション、及びＰ７にある中期的な拡大の方向性の戦略を軸に、近接領域への拡張やサプライの強化に特に着目しています。

先んじて負債での資金調達を連続的に実施しており、４月末時点での現預金残高は185億円、有利子負債は189億円と、今後の投資に対する準備を進めています。借入条件は固定金利と変動金利、一括返済と分割返済を組み合わせ、今後の資金需要に備え最適化しています。

当社のM&A戦略においても、ラクスルのプラットフォームとのシナジー発揮を重要視し、これまでの買収企業は収益性の高い企業も多く、金利の変動による投資見通しへの影響は軽微であります。

Q3	マクロ環境が変動する中で業績動向や環境に変化はあるか？

第３四半期決算発表において発表した業績動向・業績見通しから大きな変化はありません。

ラクスル事業では2023年のパンデミックからのリオープニングによる前年ハードルの高さに起因する前年比成長率のボラティリティが徐々に平常化し、第４四半期の売上総利益と売上高のオーガニック成長率は前四半期よりも改善する見込みです。ノバセル事業においては季節性と単発案件の動向により、売上総利益は前四半期比で減少する見込みです。

以　上